

博物館・郡上八幡

齋藤雅人



岐阜県のほぼ中央に位置する郡上八幡は、人口約18,000人弱の小さな谷間の町です。古くから城下町として栄えてきた郡上八幡は、美しい水に生まれ、そしてその水と共に暮らす町でもあります。特に有名なのが毎年夏に開催される郡上おどりです。400有余年の昔、士農工商の融和を図るため時の城主が奨励したのが始まりとされており、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。

夏のイメージが強い郡上八幡ですが、踊り以外にも様々な文化が、息づいている町でもあります。

県の重要無形文化財に指定されている郡上本染め、岐阜県で唯一、一軒になった紺屋(藍染)は、420年の長い伝統と技を現在に伝えています。また毎年1月の大寒の日には、こいのぼりの「寒ざらし」が清流吉田川で行われ、寒流の中に青や赤といった色鮮やかなこいのぼりが浮かび上がります。他にも、郡上紬(故宗広力三氏・人間国宝)やふじ細工、郡上ピク等、昔ながらの技法を用いて今日まで引き継がれています。そしてこのような伝統文化は、特別な文化として位置付けられているのではなく、ごく

自然に町の中に溶け込んでいます。このような伝統文化も含めて、町では、アート(手を使う技術も含めた工芸・芸能・芸術)を生かした町づくりの構想として「アートピア郡上八幡構想」を策定しています。「アートピア」とは「アート」と「ユートピア(理想郷)」の合成語であり、まちづくりを表現する用語として作られた言葉です。例えば、ドイツを中心に世界中で活躍している音楽家による“ダルムシュタットアンサンブルコンサート”、中高生を対象としたブラスバンド講習会“ブラスの里”、一流の唞家を招いての“郡上八幡大寄席”、200年以上の歴史をもつ農村素人歌舞伎“高雄歌舞伎”連歌の宗匠・飯尾宗祇にちなんで開催される“連句フェスタ”、そして“藍染体験教室”等々誰もが気軽に参加でき、楽しく文化や歴史を学ぶことができます。

また、ミニ美術館・博物館も幾つか点在しています。紙や木の枝が創り出す様々な世界を楽しむことができる「水野政雄アートギャラリー遊童館」、鮎の画家と呼ばれた水野柳人が収集した奥美濃の素朴な民芸品と柳人の絵を鑑賞することができる「奥美濃おもたか家民芸館」、そして齋藤家が江戸時代以来270年にわたり茶人として収集・愛用してきた茶道具や書画・美術工芸品と神秘的な音色を響かせる水琴窟がある「齋藤美術館」。これらは、“やなか水のこみち”と呼ばれるポケットパークの一角に位置しています。郡上八幡博覧館は水、歴史、技、踊りのテーマ毎にそれぞれの魅力を分かりやすく展示・紹介しています。

市街地の中央を東西に流れる清流吉田川や大小幾つかの歴史的水路、そして古い町並みを歩きながら、様々な文化に触れられるさらには少し郊外に出掛ければ、緑多い自然の風景に出会える、そんな郡上八幡は町全体が一つの大きな博物館なのです。

(博物館協会理事 齋藤美術館館長)

全国博物館大会報告

今、博物館に求められているもの

— 博物館相互の連携 特に相互信頼の醸成について —

第44回全国博物館大会が、11月6日・7日の二日間、横浜市の県民ホールで開催された。

開会式後の全体会議で、文部省長谷川社会教育課長から、平成9年度予算概算要求事業について行政報告があった。

その主なものは①マルチメディアを活用した博物館機能の高度化・情報化の推進事業②施設整備充実事業③科学系博物館ネットワーク活用推進事業④学芸員等の資質向上を図るための新規事業等であった。

午後からは、サブテーマ“博物館相互の連携 特に相互信頼の醸成について”を東京国立博物館鷹塚次長の司会で、シンポジウムが開かれた。司会者の鷹塚氏から“博物館は今、見せてやる時代から見て頂く時代”となり、本質的な楽しさが求められているとの発言があった。大阪市立自然史博物館長宮武講師からは、テーマに基づいた具体的事例として、昆虫担当学芸員協議会の設立の経緯と現在の活動状況の報告があった。

他の講師も、企画展等の充実を図るためには、学芸員同士の人的交流（情報交換）がいかに重要かを資料の借用交渉を例に発言があった。

7日の午前中は、前日と同じテーマでフォーラムが開催され、前日同様、鷹塚氏の司会で進められた。富山美術館学芸員水岡講師から小規模な館の運営には、他館との共同研究・調査が、経済面からも不可欠であり、博物館相互の連携の基礎になるとの発言があった。

また、7日の全体会議の質疑応答では、会場の350人余りの参加者の中から①「ボランティアの研修期間と報酬は」②「入館者が楽しみながら学ぶ工夫は」等の質問が出され、①について東京都恩賜上野動物園長斎藤講師が、毎年100人近い若者の応募があり、半年間の実地研修を終えて、無報酬で働いて貰っているとの発言に会場からため息が漏れた。

②については、金沢文庫副文庫長真鍋講師が“見る博物館から五感をとおして触る博物館”が、今求められていることを踏まえて、古文書等の修復の事例が発表された。会場の参加者からは、実物のいん石や、恐竜ロボット、魚や蛇等に触るコーナー等を設置し、入館者に大変好評であるとの発言があった。

最後に、次のような決議書が、国及び地方公共団体などに要望することが採択され、二日間にわたる第44回全国博物館大会は幕を閉じた。

1.博物館法改正の推進

博物館の実態の変化や社会的要請の高まりに対応できる法体系及び私立博物館への支援制度の整備

2.学芸員等の資質の向上

学芸員等の資質及び専門性を高めるための各種研修機会の拡充と各般の処遇の改善

3.税制措置等による支援推進

(1) 博物館法に規定する登録博物館の設置運営を主たる目的とする公益法人の、特定公益増進法人化

(2) 私立博物館に対する租税特別措置法関係規定の見直し

(3) 私立博物館に対する低利融資の対象の拡充

4.博物館活動に対する助成の充実

(1) 生涯学習の中核に相応しい博物館活動の充実と連携の推進を可能ならしめる、ソフト面での助成の拡充

(2) 科学技術特に情報科学の進歩に対応できる施設、設備への助成の拡充



(岐阜県博物館 岩田千恵子)

第70回 公開講座報告 飛驒・美濃合併記念展講演会

「明治維新と飛驒」

期日 平成8年10月27日(日)13時～

場所 岐阜県博物館

マイ・ミュージアム棟ハイビジョンホール

講師 松田之利氏(岐阜大学地域科学部長)



飛驒・美濃合併120周年記念展「岐阜県の明治維新」が10月8日(火)より11月17日(日)までの42日間にわたり岐阜県博物館で開かれました。この特別展を記念し、10月27日(日)午後13時より岐阜県博物館マイ・ミュージアム棟ハイビジョンホールにおいて岐阜大学地域科学部長・松田之利教授の「明治維新と飛驒」の講演会が開催されました。

岐阜県博物館の小林学芸部長の挨拶、講師紹介があり、続いて松田教授の講演へと入りました。

当日は県内各地より明治維新等の歴史に興味関心をもつ方が多数参加され、講演会は大盛会でした。松田先生のご出身は、長野県松代です。

明治初期における筑摩県の創設と岐阜県への編入という歴史的事実と深い関係があり、長野県の風土や県民性を体験を踏まえながら、明治から現在に至る地方自治の歴史を具体的に説明されました。また、歴史の説明では避けておることのできない歴史の概念をハイビジョン

を利用して、分かりやすく説明していただきました。

特に地方自治の説明では飛驒高山で江戸時代に発生した大原騒動に焦点を当て、地方自治の観点より、その騒動の歴史的意義について言及されました。中央での政策の実施がどのようなプロセスを経て地方の歴史に影響を与えていくかが大変よく理解できるものでした。



最後に、飛驒・美濃合併120周年に当たって飛驒と美濃のより一層の共存を考えることが今後の課題であると述べられました。

松田先生の講演は、先生自身の人柄が出ており、ユーモアとセンスが随所ににじみ出ていました。また、自己の体験を踏まえた話は歴史を身近なものに感じさせるものでした。会場の参加者も最後まで真剣に講演に聞き入っていたのが印象的でありました。参加者の中には、岐阜大学の卒業生も多く、久しぶりに聞く恩師の講義に学生時代を回顧し、懐かしがられた方も多かったと思われます。

(機関紙委員 岐阜県博物館 曾我孝司)

第21回東海三県 博物館協会 交流研修会に参加して

今年度の東海三県博物館協会交流研修会は平成8年10月3日(木)～4日(金)の2日間にわたって開催されました。

1日目は瀬戸市の愛知県労働者福祉センターで、愛知県40名、岐阜県12名、三重県15名の参加で、講演と事例発表が行われました。

2日目は豊田市美術館と愛知県陶磁資料館の施設見学がなされました。

○講演「感性の理論—これからの美術館をめざして—」(岡崎市美術館長 衛藤 駿氏)

長年美術館業務に携わってこられた衛藤氏は、豊富な体験を生かして「行・望・遊・居」ということで、1人1人が自らの心また生活の中に、ミュージアムを作っていくことを語られました。博物館は全部を見るのではなく、個人の観点をもって見ていくことが大切になります。外部からの博物館評価に対して、内容の質の高さと入場者数があるが、それぞれ学芸員の立場と設置者の立場によるものでありこれは別のものと考えたい。

岡崎市美術館は、資料収集をスタートに、恵まれた環境を生かすこととディスプレイの方法にポイントを置いて設立されました。

○講演「豊田市美術館について」(豊田市美術館主任学芸員 青木正弘氏)

豊田市美術館準備室の当初から、最近の企画展や巡回展までについて発表されました。

美術館建設にむけての資料収集に当たった5



研究協議における発表

年間の努力、展示のための特別な仕切り壁の工夫、独特な新しい照明方法などを具体的に説明されました。

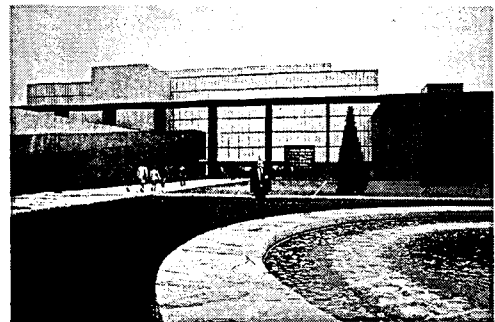
また、豊田市美術館は、近・現代の美術品に重点を置いた新しい型の本格的な美術館にしていくことを強調されました。そして、美術館を支える財団形式の長期的な予算計画にも触れられました。

○研究協議「これからの博物館—ユニークな博物館活動—」

三重県の四日市市立博物館の鈴木晴美氏は平成5年にオープンした当博物館のユニークな「移動天文車・きらら号」の活動についてその人気の高さを発表されました。

岐阜県の齋藤美術館長の齋藤雅人氏は、隣の2つの博物館と協力して郷土に根ざした活動をする中で、「野外コンサート」を計画され好評を得たことについて発表されました。

愛知県の師勝町歴史民俗資料館の市橋芳則氏は、年2回の企画展で、戦後を扱った新しいテーマでオープン方式の情景展示をして好評を得たことについて発表されました。



施設見学 豊田市美術館

施設見学は、1日目に講演のあった豊田市美術館と今回の交流研修会の主な世話役をして頂いた愛知県陶磁資料館でした。美術館では、新しい豊富な展示とスケールの大きさに、陶磁資料館では、豊富ですばらしい資料に圧倒されました。(研修委員 岐阜県博物館 鹿野勘次)

衣の里 本陣
きもの博物館

〒501-43

岐阜県郡上郡明宝村大谷登り上り

TEL 0575-87-2067

フリーダイヤル 0120-277833

衣の里は明宝村大谷登り上りの地に江戸、明治、大正の貴重な着物を一同に展示した「きもの博物館」として、平成5年に開館されました。

きものを中心とした博物館は、館主鷺見みるさんが、日本人の歴史の中で育んできた「きもの」に焦点をあてて長年にわたり収集されたコレクションです。

彩色ある見事な振袖、着物、帯等三千点余を四季毎に交換展示しています。

日本人の伝統美を大切に守り続けてきたきもの、日本人ときものの流れが十分理解できることと思います。

メインの建物となる江戸時代全国各地の街道に設けられた本陣を模造して総檜造りで建てられており、しかも清流寒水川を眼下に眺められる景勝を備えた上段間は、まさに平成の本陣と言えます。

開館時間 AM10:00~PM5:00

※ 冬期 PM4:00

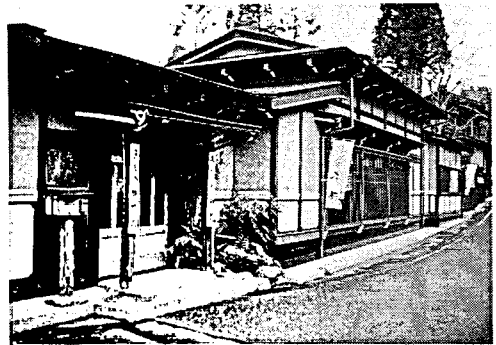
休館日 毎週火曜日

入館料 大人500円 高校生以下300円

(団体10名様以上300円・150円)

尚、冬期1・2月は休館

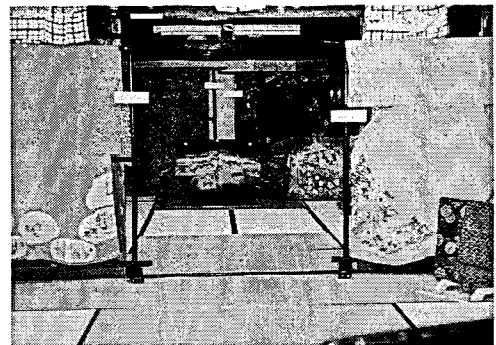
(機関紙委員 齋藤美術館 齋藤尚子)



衣の里 本陣きもの博物館全景



展示室内



展示室内



ミュージアムショップ 花ぐるま

古今伝授の里フィールドミュージアム

〒501-46 郡上郡大和町牧912-1
TEL 0575-88-3244 FAX 0575-88-4692

古今伝授の里フィールドミュージアムは、大和町が戦略的町づくりの拠点施設として総力を結集し、平成5年7月にオープンしました。岐阜県を代表する新しいタイプの博物館として注目されています。

圏域には、史跡篠脇城跡や名勝東氏館跡庭園をはじめとした古今伝授の祖・東氏に関する中世の史跡が点在し、美しい中山間地の風景が広がっています。そこでこれら史跡群に加え、現存する農村風景の価値を踏まえて東西約2Kmにわたるこの地域一帯を野外博物館としているのが古今伝授の里フィールドミュージアムです。核施設として「東氏記念館」と「和歌文学館」を整備し、別に歌集類を専門に収蔵する「大和文庫」、交流館「レストランももちどり」、研修館「篠脇山荘」、茶屋「いなおほせどり」、売店「よぶこどり」など一連の建物群が一つの集落を形成しています。

建物は周囲の自然環境に違和感なく溶け込み、ガラス張りの広い開口面によって内景、外景、変化に富んだ景が入り交じって一体化します。つまり、展示物の観賞にとどまらず、そこに居ることだけで自然にも触れられ、豊かな時間をもつことができるわけです。

「ももちどり」や「よぶこどり」、「いなおほせどり」などのサービス機能が充実しているため観光地としても成り立っています。とりわけ、本格的フランス料理のレストランである「ももちどり」の評判が絶大で、東海地区のトレンドスポットとして広く紹介されました。



ショップやレストランがミュージアム経営の一つの決め手になる時代ですが、その模範事例ともいえるでしょう。

さて、肝心の展示内容ですが、東氏記念館には東氏の末裔にあたる27代目当主より寄贈を受けた東家文書類を中心に古今伝授関係の史料、近世までの著名歌人たちの和歌短冊類が並びます。和歌文学館は万葉から現代までの和歌史を10連のパネルで概観できるようになっています。さらに、近現代の短歌界を担った主要歌人の自筆の歌短冊等が展示されています。圧巻は36mにわたる古今和歌集絵巻。若干説明不足の点はありますが、できる限り館員によるガイドをすることによって、楽しく古今伝授や和歌の世界を学ぶことができるように対応しています。

展示は常設のみですが、研修館「篠脇山荘」で行われる各種展示会や新能くるす桜、雪月花コンサートといった質の高いイベントを定期的に催すことによって特別展以上のバラエティと厚みをもたせるよう努力しています。

〔交通機関〕長良川鉄道or岐阜バス白鳥線
徳永駅下車東へ2Km

〔開館時間〕午前9時～午後5時

〔休館日〕毎週火曜日及び年末年始

〔入館料〕500円(団体割引有り)



(古今伝授の里フィールドミュージアム 金子徳彦)